

高見 順編

日撃者の証言

青銅社

高 見 順 編

目 撃 者 の 証 言

執 筆 者

神 崎	清	宮 内	寒 彌
堀 田	善 衛	阿 川	弘 之
中 本	た か 子	高 見	順
窪 田	精	阿 部	知 二
水 島	優	梅 崎	春 生
井 上	光 晴	安 部	公 房
八 木	義 徳		

青 銅 社

目 次

北のチトセ	神崎 清 三
△カチューシャのいる町▽	
米国海軍基地『横須賀』	堀田 善 衛 四
われわれの運命	堀田 善 衛 四
△朝霞・立川の記▽	
新風俗街『ふくや』	中本たか子 六
富士山麓(一)	窪田 精 七
富士山麓(二)	水島 優 八
新軍港都市『佐世保』	井上光晴 一〇六
ヨコハマ	八木義徳 一三三

ヨコハマの日本人町
△野毛町ルボルタージュ▽ 宮内寒弥 一三

澁谷廣場の東大生 阿川弘之一 一五

メーデー流血事件目撃の感想 高見 順 一六

メーデーを見る 一六

遺憾という意味 阿部知二 一六

私はみた 梅崎春生 一七

夜蔭の騷擾
△五・三〇事件を私はかく見る▽ 安部公房 一八

あとがき 高見 順 一九

装 幀 高橋錦吉

北のチトセ

△カチューシャのいる町▽

サッポロでとまった丸惣という古い宿屋の枕べに、カーン、カーンと、時計台の鐘の音がひびいてきた。北大予科の寮歌でなじみのふかいあの時計台の鐘である。

今は、市立の図書館になっているが、昔はサッポロ農学校の演武場の建物であった。明治十三年にすえつけられたという楼上の大時計が、七十二年間きわめて忠実に時の鐘をならしつづけているのだ。

時計は、アメリカ製（ボストン市ハワード会社）

神崎清

で、鐘は日本製。だが、東京の雑音の渦巻のなかで聞く、駿河台のニコライ堂の鐘や、銀座の服部の大時計の鐘と、まるで音色がちがうのである。

北欧的な清澄な感じ、清教徒的な感じといってもいいであろう。開拓史時代をわすれぬ古い時計台の鐘のひびきのなかから、「ボーイス・ビー・アンビシャス」と日本の青年をほめましたあのクラーク博士の声が聞こえてくるような気がするのであった。ところが、サッポロからバスで一時間、アメリカ用の空軍基地（チトセ・キャンプ）が

あるチトセ町にきて、旭屋旅館にとまった夜、この東京からの旅人をおどろかしたのは、枕もとにながれてくるさわがしい英語の街頭放送であった。とてもおちついて、ねてなどはいられない。

「イフ・ユー・ウオント・ナイス・ビヤ・エンド・ナイス・ガール・ブリーズ・カム・ツウ・ビヤホール・ナンバー53・オクラホマ……」

若い娘のなまりのある英語が、いやらしい媚びをふくんで、上等でないラウド・スピーカーからとびだしてきて、町をとる兵隊によびかけているのである。

宿の女中に聞いてみると、町の床屋の二階にT・H・K（チトセ放送協会）という民間放送局があって、メイン・ストリートの電柱に四、五台のラウド・スピーカーをすえつけ、晝間は、日本人商店の広告放送、夜はアメリカ人向けに切りかえ、ビヤホールの宣伝をしているという話であった。

私は、富士山ろくのヤマナカをはじめ、センダ

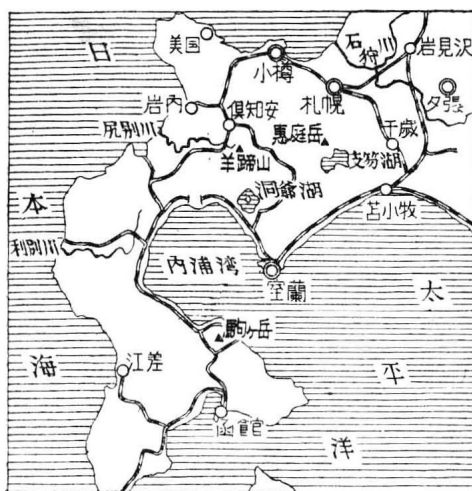
イ・ヨコハマ・ヨコスカ・イワタニ・フクオカなど、アメリカの兵隊のおおせいいる町を歩いたが、このチトセのように、たとえ夜の数時間にせよ、英語の放送が町全体をさわがしく支配しているところを知らない。

ビヤホールといっても、コハク色のビールの味覚だけをたのしむ清潔な酒場だと思ったら、大ちがいだ。バックカスの神とエロスの神が同居しているのである。

明治初年、さいわいにしてビューリタンのクラーク博士をサッポロ農学校にむかえた北海道は、今やチトセ・キャンプの兵隊が、「酒と女」をある本能的な享楽主義になやまされている。

ロシアの飛行機

町役場でもらった『町政要覧』で見ると、近くの国立公園シコツ湖の語原は、アイヌ語で、ジ（大きな）コツ（面積）トー（沼）という意味であった。



北海道南西部略図

古くから和人の往来が見られたが、シコツが「死骨」に通じるところから、文政年間、縁起をかついで千歳とあらためたのが、現在の町名の起源になっている。

不吉なことをいうようだが、現在アメリカに軍事基地としての使用をゆるしている以上、まかり

まちがえば交戦国の爆弾の雨がふってきて、いつまた「死骨」の町にかえらないともかぎらない。

これが、軍事基地の持つ必然の運命というものである。しかし、町の人たちの大部分はそこまでつきつめて考えていないようであった。いや、考えるよりもなによりも、飛行機のガソリンが、みんなの頭にふかくしみこんでいるチトセはふしぎな町であった。

航空保安事務所I氏の語るところによれば、すでに大正年間、北海タイムスと小樽新聞の共催で、サルムソン機をこのチトセの町でとばしている。「コンクリートの滑走路がある」というので、町の人たちが絵出で、一トンのローラーをひっぱってあるくほどの熱心な協力ぶりを見せたのであった。

昭和十年、旧陸軍の大演習が北海道でおこなわれたとき、チトセの飛行場が使えるようにするために、こんどは二トンのローラーを馬でひっぱって、あたらしい滑走路をつくった。重爆撃機が自

由に発着できるようになっていたのである。

飛行機熱にかされた町の人たちは旧海軍省と交渉して、昭和十三年、旧海軍航空基地をひきよせることに成功した。第一基地（六百五十町歩）のほか、二千五百メートルの滑走路を持つ第二基地（二千町歩）を建設中、終戦になってしまったけれども、レイテ島の菊水作戦に加わった神風特攻隊が、このチトセからとびだした絶望の悲劇は、わすれがたいものがあつた。

終戦直後、チトセに進駐したアメリカ空軍は、ここを基地としてニューヨークまで、B29の無着陸飛行をおこなっている。その後、いわゆる北方警備の中心として、大がかりな軍事建設がすすめられて、現在では、世界一といわれるニューヨークのワールド・アィドル・ワイルドの七本の滑走路を持った飛行場よりも大きな飛行場ができあがったらしい。が、アメリカの手におちたこの航空基地のゲートの入口には、MPが見張りをしていて、無用の日本人は一步もちかづけないのであ

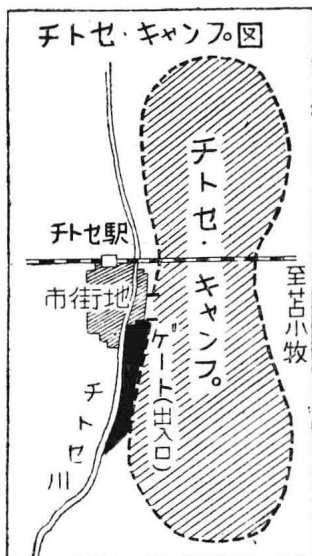
る。

私は、一月二十五日の夜、ある学校の先生に案内されて、雪のつもった町を散歩しているうちに、ゲートの前へ出たが、ロシアの飛行機がとんできたというので、キャンプの兵隊は、鉄かぶとをかむって非常警戒にあたっている。東京からリッジウェイ総司令官もきているそうだしという話をしてくれた。それでいて、あわてた様子はどこにも見えない。案内者の話をどこまで信用しているのか、よくわからなかったが、よく日の北海タィムスを見ると、「リッジウェイ大將は、二十五日、このほど朝鮮戦線から帰還した米第一騎兵師団その他の部隊を、猛吹雪をついてチトセ基地に訪れた」という涉外局の発表記事が出ていた。

総司令官の飛来は、嘘ではなかったのである。

ロシアの飛行機は、レーダーにかかった味方機の誤認だったらしいが、とにかくこうしたゲート内のキャンプの出来事が、電流がつたわるように町の人たちの耳にはいつてくるのは、みんながなに

かしら、特別の受信機のようなものを生活感覚のなかに持っているからであろう。



バンバン第一号

北海道を占領したアメリカの空軍部隊が、チトセの旧海軍航空基地を接收したのは、昭和二十年十月七日のことであった。が、指揮官のミリン大佐をはじめ、士官たちが紳士的な行動をとったので、心配されたような町の不安は、ほとんどなかったという話である。

ただ一人、機関パイロットから「日本の女を世話してもらいたい」とねだられて、その処置に困った。というのは、そのころ三軒町に五十人ばかりいた旧日本軍の慰安婦が、終戦のうき目をなげき、「ふるアメリカに袖はぬらさじ」と一せいの廃業して、一人のこらず姿をけしてしまったからである。

しかし、パイロット君は、ぜったいにあきらめない。やむなく、旧航空隊のある士官が、サッポロの藝者をよんで、唐人お吉もどきに因果をふくめて、枕頭にはべらしてやった。その代り、身代金が当時の金で四万円というから、青い目玉のとびでるような取引だったにちがいない。

ひろい東京やヨコハマの町では、さいしょにアメリカ人に接觸したバンバン第一号を発見するころとは、ほとんど不可能に近いが、チトセはせまい田舎町のおかげで、こうしてバンバン第一号を見つけたことができたのである。

右のサッポロの藝者が、いわばオンリー・ワン

(旦那持ち)の草分けであるとしたら、おおぜいの兵隊をひきうけるバタ・フライの第一号は、役場の助役や警察の人々や民生委員など、あらゆる消息通の談話を綜合して、風呂屋の娘だろう、という事になった。

満洲で水商売をしていた母親が、娘にお客をつけたのである。娘はなかなかの美人で、さいしょのうち、ヌード写真のモデルに提供して、アメリカの兵隊をよろこばしていたが、つぎの段階には、カメラ抜きで、娘のヌードそのものの提供へ進んでいった。いつも、家のまわりに何台もジープがとまって、兵隊が蜜^{ハチ}のようにあつまっていた。

この場合、どう欲な母親が、親方であり、やり手ばあさんであった。反逆をおこした娘が、ついに家をとびだしたので、捜索願を出すやら、新聞広告を出すやら町中のさわぎになってしまった。

町の世論は、もちろん不心得な母親に道徳的な非難をあびせた。が、同時にまた疊の下から出て

きたという何万円かの札束が、羨望の目をさそったことも、否定するわけにいかない。

実をいうと、それ以来、遊廓でもない、藝者町でもない、ふつうの住宅地で、女を家において、アメリカの兵隊のふところをねらうハウス営業が、公然とひろがっていったのである。「人は時代の波にのらねばならぬ」というはやり言葉が、いかにチトセの町の人たちの企業精神(?)を鼓舞・激励したことであるか。

西部劇の町

アメリカ空軍に接收されたチトセ基地に、J・L・C(兵站司令部)がおかれたが、兵隊の数もすくなく、パンパンの発生と浸透は、漸進的なものであった。

第一のコースは、キャンプにつとめている町の娘との自由な「交際」からはじまった。しかし、正式に結婚した者は、ごくまれで、かなり多くのオフィス・ガールやハウス・メイドが、パンパン

の生活におちていった。

昭和二十三年、隊内の風紀がみだれる、というので、キャンプに勤務している日本人の娘たちの性器を検診することになったが、日本の女性の尊厳を守るために、この強制検診を拒否して、キャンプをやめた気のない娘が、三人あった。

第二のコースは、ヨコスカやサセホから轉勤を命じられた士官や下士官がなじみの女をチトセの町へつれてくる、といった移動の現象である。しかし、この段階では、まだ少数のオンリーが、町にチラホラする程度であって、やがてはじまる大移動のさきぶれにすぎなかった。

チトセの町の一切は、アメリカの対ソ戦略にもとづいて、昭和二十六年の四月、朝鮮戦線から引きあげてきたオクラハマ州兵師団の大部隊が、チトセ・キャンプに駐屯する意志をあきらかにした瞬間から、圧倒的な力をうけて、その姿を一変してしまっただけである。

ところみに、国鉄チトセ駅の乗降客をしらべて

みると、昭和二十五年五月の四万六千二百七人が、この州兵師団の駐屯を境にして、昭和二十六年の五月には、一やく九万三千八百七十人と、二倍の激増ぶりをみせ、さらに同年七月の十三万六千九百九十九人と、三倍増のおどろくべき上昇線を描いている。

大がかりな基地の建設工事と、兵隊の大消費を目あてに、群がりあつまってくる「欲望」という名の人間たちで、チトセは、にわかにブーム・タウンとなり、ゴールド・ラッシュの町になった。

終戦の昭和二十年に、一万人を数えるにすぎなかったチトセの町の人口は、昭和二十六年三月までに、一万七千四百六十二人と、漸増のいきおいを見せていたが、同年八月には、二万三千人（推定）とはねあがって、人間ラッシュの反映を示している。

昭和二十六年の三月、千八百七十八人だった進駐軍要員が、同年八月には、五千七百三十五人と三倍にふくれあがった。が、兵隊のあとを追いか

けてきたハウス業者や、パンパンや輪タク屋などの集団は、ほとんど移動証明を持たず、寄留届も出していないので、正確な数がかめれない、計算のしようもない、と役場の係員がこぼしていた。

ハッキリわかっているのは、それまで十一層しかなかった町のビヤホールが、州兵師団がのりこんできたとたんに、五十八軒に急増したことであつた。毒々しいペンキをぬりたてたあやしげな建物が、ところかまわず、まるでオデキのようにふきだしてきたのである。

ある中学生が、作文に「西部劇の町のように」と書いたが、ストーク・クラブとか、サンダー・バードとか、パツションとか、英語の看板を出したお粗末なビヤホールの表情をみていると、西部劇の映画のセットのようで、まったく日本人の住む町とは思われない。

しかし、このビヤホールのかせぎが大したものである。ウィーク・デーはトラツク二台、かき入れどきの土曜・日曜には、トラツク四台につんだ

ビールが、サッポロからチトセにはこぼれてくる。トラツク一台に百二十箱、一箱二ダース入りで、五千七百六十本。四台分なら、実に二万三千四十本のビールが、一晩のうちに泡になつて消えてしまうのだ。

女をつれた御用商人

この北方のブーム・タウンに、なにごとく心得た御用商人のつもりで、女をつれてのりこんできたのが、サッポロの業者と、はるか南のサセホの業者であつた。とりわけサセホの連中は、ホロ馬車ではないけれども、輪タクの輸送部隊をとまなつた大集団で、津軽海峡をわたってきたのである。

だが、今でも近くにアイヌ部落のあるチトセ町は、市街地の戸数が千九百戸、空地ばかり多くて、彼らを收容する家がなかった。ゴールド・ラッシュに刺戟されて、またたくまに、七百戸の新築ができあがったが、そうしたハウスの設備がと

とのうまでは、手だれのパンパンと兵隊のあいだに、あからさまな野外戦がおこなわれていたという話であった。

どこの町でもあることだが、学校の教室が、無料のホテルとして、彼らに利用された。はなはだしきに至っては、チトセ神社のわたり廊下が、パンパンのメンスの血だけがされ、信心ぶかい人たちの立腹の種になった。

それにくらべると物置小屋や馬小屋にわらをした寝室は、このさいにおける最良のホテルであった。ああ、馬小屋のいとなみ。クリスチャンに叱られるだろうが、チトセの馬小屋から合の子のキリストのうまれてこなかったのが、ふしぎなくらいである。

しかし、こんな不潔な乱行が、兵隊にたたらないはずはなかった。風説によれば、性病にかかる者が目立ってふえてきて、本国のオクラハマ駐屯時代にくらべて、三倍の激増を示したといわれている。



街の随所に見るパンパン群

六月十四日、リッジウェイ最高司令官が、チトセ・キャンプ視察のため、東京から飛行機でとんできたときに、この州兵の風紀問題と性病対策

が、憂慮すべき問題として、関係者のあいだで論議された模様で、その結果、GHQを通じて、外務省に勧告をあたえると同時に、北海道終戦連絡事務局にたいして、厳重な申入れをおこなった。

一、風紀取締の徹底化

二、性病の予防措置

三、性病者の治療

外務省が、どんな処置をとったかは、知られていない。北海道の関係機関が、あつまって相談をはじめた。チトセの町役場では、サッポロの條件をそっくりそのまま持ってきて、六月二十一日、「風紀取締條令」を大急ぎでつくりあげた。

第一條 この條令は、道路、その他の場所における売春のための客引行為等を取締ることによって、善良の風紀を維持し、社会秩序の健全な発達をはかることを目的とする。

いわゆる客引條令である。道路上でのあらわな客引行為が禁じられているだけで、売春行為そのものは、なんらの抑制をうけていない。売春容認

條令といった方が早いかも知れぬ。いくら嚴重に取締る、と力みかえってみたところで、この町の自治体警察は、署長から小使まであわせて、わずか十六人しかいなかった。しかし、それにしても、昭和二十六年度において十一人の違反者しかつかまえていないのは、チトセ警察の寛大な精神を物語るものであろう。

性病中心主義

日本の役人の小田原評定にゴウをにやしたらしいチトセ・キャンプは、七月十四日、「チトセ町一帯を立入禁止区域にすることを考慮中である」と、最後通牒的な警告を発した。たんなるおどし文句ではなくて、町の風紀状態を改善させるために、西のイワクニでも、南のサセホでも、キャンプの隊長が、一定の期間をかぎって、兵隊の外出禁止を命令した先例のあることを知っている。

町全体のオフ・リミットは、兵隊のおとす金をねらっている商店やハウスにとって、大打撃とい

わなくてはならぬ。

かりに州兵師団を一万八千人、月給を平均百ドルとおさえて、その三分の一を遊興飲食に使うものとすれば、一カ月六十万ドル、日本の金で二百六十万円が、ビール、泡や女の口紅をとおして、チトセの町におちてくる勘定になる。

ことに町長のY氏は、ビヤホールやハウスの繁栄をのぞむ土建業者であり、町会議長のW氏も、チトセにはこんでくるビールの独占的な供給者であった。町の有力者たちが、オフ・リミットをさけるために、いかに涙ぐましく奔走したことか。

七月二十日、北海道知事室で、関係機関があつまって、よりよい性病対策を協議した。要するに、「アメリカの兵隊に性病をうつしては申訳がない」という精神である。言葉をかえていえば、「どうすれば兵隊に衛生的なサービースができるか」ということの相談であった。

ハウス業者をあつめて、八月三日、急造的に結成された「チトセ町睦会」は、キャンプ当局と町

警察の熱心な示唆にもとづくものであった。町警察が、ハウス業者にあたえた「性病予防・風紀の維持・防犯対策上の要請事項書」には、つぎの事柄がうたわれている。

一、検診の励行

二、居室等の保健衛生

三、米兵の遊興時間を午後一時までに厳守

四、飲食物、ウィスキー提供の禁止

これにたいして、MPもまた、違反の事実を発見すると、オン・リミットをとりつけてオフ・リミットの処分をすることになっていた。

一、非衛生的な居室・台所

二、検診カードを持たない接客婦の存在

三、軍物資の取引

四、午後十時四十五分以後の飲食提供

こうした対策をおしてうかがわれるのは、在日アメリカ軍当局が、「もし性病にかからぬよう要心し、そして門限にさえおくれなければ、パンとあそんでもかまわぬ」という態度をとって

いるらしいことである。

第二は、取締の便宜上とはいいながら、ハウス業者の組合を利用していることで、彼らの組織的売春・集団的売春をみとめるものと同じ結果をうんでいる。いわゆる協力関係における売春営業は、一種の公娼性をおびてくるのではないか。

この性病中心主義と、集団売春の容認は、ひとり北のチトセばかりでなく、アメリカ軍隊の存在するあらゆる軍事基地の風紀対策の共通的特長になっている。軍事占領がとかれたはずの今日でも、右の方針が変更された話を聞かない。日本の政府が態度を確立して、この二つの点にメスを入れるのでなければ、現在重大化してきた基地風紀問題の前進的な解決は、ありえないであろう。

オンリーワン・パス

しかし、検診を励行した結果は、けっしてわるいものではなかった。町の保健所の検診統計が、性病者の漸減を物語っている。だいたい二〇%と

いうところが、全国的な平均の数字であろう。

月別	検診数	罹患者数	比率
五月	三二名	一二名	四〇・一
六月	二、五五名	五三名	三三・四
七月	二、二五名	四四名	一九・五
小計	四、九二名	一、三三名	三三・七

五月の四〇%という高率は、朝鮮がえりの兵隊を歓迎した野外劇のいたましいギセイである。アメリカ軍当局は、一般に日本のパンパン娘から兵隊が病気をうつされる、と信じているようだが、ぎゃくに日本の娘が兵隊から病気をうつされる被害者の場合だって、十分にありうる。この感染ルートの実態が、まだあきらかにされていない。

感染源追及といえ、いつも日本のパンパンだけが一方的に追いまわされているが、病菌には国籍がないのである。パンパンの検診で、有毒者が発見されたとき、関係をした兵隊にたいしても、同じように感染源追及の処置がとられるのでなければ、片手おちのそしりをまぬがれないし、医学

上有効な対策が立つわけがないのだ。

現在この検診の仕事は、保健所からチトセ診療所の手にうつされ、北大の医者が出張してきて、睦会所属の専業パンパン（約五百名）にたいしては、週二回、料飲組合（ビヤホール）の女給と称する兼業パンパン（約百五十名）にたいしては、週一回の検診にあたっている。

ビヤホールの女給たちが、「私たちは、ほんとうのバージンだ」といって、検診をつよくこぼんだので、人のよい若い医者が、彼女たちの人格を尊重して検診もせずにカードに判をおしたことがわかって、「お客をとっているのに、不公平だ」と、専業パンパンにさわがれたことがあった。

あらためて女給たちを検診してみると、バージンでない者が、おおぜい出てきた。女給の場合、三千円前後の固定給に、あとはチップ、閉店後の行動については、主人の干渉をうけない。このビヤホールとハウスのあいだに、たえず女の交流がおこなわれているので、兼業パンパンと見た

方が、事実に近いであろう。

診療所の検診でおちた女は、治療中、検診カードをとりあげられる。したがって、論理的には、カードを持たないパンパンは、みな病気だということになる。チトセ・キャンプでは、「検診カードを持たない女に接觸しないように」という切実な勧告をおこなっているらしい。が、そうした効力を持つとなれば、診療所へかよって、定期的に検診をうけている、というだけの一枚の紙片が、実際的には、売春婦の登録カード、乃至売春婦の免許証、といったような性質のものにかわってくるのである。

これとは別にチトセ警察が、オンリーワン・パスという奇妙な証明書を発行している。このパスを持つパンパンは、特定の米兵としか関係してないという理由で、ほかのパンパンのように、定期的な検診をうけなくてもいいのである。アメリカの兵隊とつれだって、警察に出頭して、口頭で申出れば、発行してくれる。昭和二十六年十二月